
若手会員大会発表賞対象口演 1

10月10日 9:00-10:15 第1会議室

座長：近藤修（東京大学）

Y-1 ヒト・現生大型類人猿における大腿骨骨幹形態の成長比較（通常会員）

○森本直記（京都大・理）

Y-2 CT画像を用いたヒト頭蓋の半自動的な形状評価（通常会員）

○伊藤毅（琉球大・医）、木村亮介（琉球大・医）、龍康殿あづさ（琉球大・医）、深瀬均（北海道大・医）、土屋奈々絵（琉球大・医）、村山貞之（琉球大・医）、石田肇（琉球大・医）

Y-3 比較解剖学に基づく体幹-上肢境界領域の神経分布（通常会員）

○緑川沙織（埼玉医大・保健）、時田幸之輔（埼玉医大・保健）、小島龍平（埼玉医大・保健）、影山幾男（日本歯大・新潟生命）、相澤幸夫（日本歯大・新潟生命）、熊木克治（日本歯大・新潟生命）

Y-4 骨格標本から見たマカク属の尾長変異特性（学生会員）

○若森参（京都大・霊長類研究所）、濱田穰（京都大・霊長類研究所）

Y-5 足の機能の一側優位性が外反母趾角に及ぼす影響について（学生会員）

○梅原彰宏（帝京平成大院・健康科学）、竹内京子（帝京平成大院・健康科学）、樽本修和（帝京平成大院・健康科学）、松村秋芳（防衛医大・生物）、岡田守彦（筑波大学）

若手会員大会発表賞対象口演 2

10月10日 10:15-11:00 第1会議室

座長：近藤恵（お茶の水女子大学）

Y-6 岡山県真庭市桃山遺跡石積み遺構（火葬墓 301）出土焼人骨からみた形成過程（学生会員）

○足立望（岡山理大院・総情）

Y-7 更新世後期の琉球列島に生息していたリュウキュウジカの新形態復元と動物考古学的考察（通常会員）

○久保麦野（東大・総博）、藤田祐樹（沖縄県博）、山田英佑（総研大・先導研）、大城逸朗（おきなわ石の会）

Y-8 遺跡出土骨から単離・精製したアミノ酸の微量放射性炭素年代測定（学生会員）

○板橋悠（東京大・新領域）、高野淑識（海洋研究開発機構）、力石嘉人（海洋研究開発機構）、小川奈々子（海洋研究開発機構）、大河内直彦（海洋研究開発機構）、山根雅子（東京大・大気海洋研）、横山祐典（東京大・大気海洋研）、米田穰（東京大・総合博物館）

Y-9 アイヌの全ゲノム SNP 解析から探る東アジアの集団史（通常会員）

○中込滋樹（シカゴ大・人類遺伝）、Choongwon Jeong（シカゴ大・人類遺伝）、Anna Di Rienzo（シカゴ大・人類遺伝）、

Y-10 寒冷適応に関わる *UCP1* 遺伝子型間のヒトにおける熱産生反応の違い（通常会員）

○西村貴孝（長崎大・医）、勝村啓史（北里大・医）、本井碧（九州大・芸工）、太田博樹（北里大・医）、綿貫茂喜（九州大・芸工）

Y-11 日本列島ヒト集団におけるモヤモヤ病感受性遺伝子 *RNF213* の集団遺伝学的解析（学生会員）

○小金淵佳江（北里大・院・医療系）、笠木聡（北里大・海洋生命）、柴田弘紀（九州大・生医研）、中込滋樹（シカゴ大・人類遺伝）、間野修平（統数研）、石崎直也（東京大・院・新領域）、河村正二（東京大・院・新領域）、秋山辰穂（北里大・理）、木村亮介（琉球大・院・医）、石田肇（琉球大・院・医）、城圭一郎（佐賀大・医）、副島英伸（佐賀大・医）、藤本一真（佐賀大・医）、佐藤公俊（北里大・医）、安井美江（北里大・医）、隈部俊宏（北里大・医）、藤井清孝（北里大・医）、覚張隆史（北里大・医）、埴原恒彦（北里大・医）、小川元之（北里大・医）、太田博樹（北里大・医）

一般口演 1：日本人の DNA 分析

10月10日 14:00-15:00 第1会議室

座長：中山一大（自治医科大学）

A-1 沖縄県伊江島出土の貝塚時代人骨の DNA 分析

○篠田謙一（科博・人類）、神澤秀明（科博・人類）、安達登（山梨大・医）、角田恒雄（山梨大・医）、玉榮飛道（伊江村・教育委員会）、土肥直美（琉球大・医）

A-2 古代ゲノムシーケンシングのための技術改良

○太田博樹（北里大・医）、覚張隆史（北里大・医）、ライアン・シュミット（北里大・医）、勝村啓史（北里大・医）、松前ひろみ（北里大・医）、埴原恒彦（北里大・医）、小川元之（北里大・医）、柴田弘紀（九州大・生学研）、佐伯和信（長崎大・医）、分部哲秋（長崎大・医）、弦本敏行（長崎大・医）、佐藤丈寛（琉球大・医）、木村亮介（琉球大・医）、石田肇（琉球大・医）

A-3 105 座位の STRs による日本人と近隣ヒト集団間の遺伝的異質性

○山本敏充（名大・医）、佃康司（久大・バイオ統計）、間野修平（統数研）

A-4 ミトコンドリア DNA 解析から明らかにされた明治時代樺太アイヌの遺伝的特徴

○Shayire Shokat（総研大・遺伝）、Timothy A. Jinam（総研大・遺伝）、松村博文（札幌医大・保健医療）、斎藤成也（総研大・遺伝）

一般口演 2：古人骨の DNA 分析

10月10日 15:00-16:00 第1会議室

座長：太田博樹（北里大学）

A-5 渥美半島における縄文時代人骨の古代 DNA 分析

○覚張隆史（北里大・医）、ライアン・シュミット（北里大・医）、松前ひろみ（北里大・医）、勝村啓史（北里大・医）、太田博樹（北里大・医）、埴原恒彦（北里大・医）、小川元之（北里大・医）、柴田弘紀（九州大・生学研）、茂原信生（奈文研）、近藤修（東大・理）、米田穰（東大・総合博）、増山禎之（田原市）、設楽博己（東大・人文）、山田康弘（歴博）

A-6 ウクライナ・ヴァティバ洞穴出土人骨の古遺伝学的解析

○ライアン・W・シュミット（北里大・医）、覚張隆史（北里大・医）、小川元之（北里大・医）、太田博樹（北里大・医）、松前ひろみ（チューリッヒ大・進化）、柴田弘紀（九州大・生学研）、ジョーダン・カーステン（ウィスコンシン大・人類）、ミハイオ・ソハトスキー（ボルシブ博）

A-7 縄文時代人の解析からみえてきたハプログループ N9b の新しい系統関係

○安達登（山梨大・医）、神澤秀明（科博・人類）、角田恒雄（山梨大・医）、篠田謙一（科博・人類）

A-8 ミンダナオ島エスカロン洞窟出土古人骨のミトコンドリアDNA分析

○尾本恵市（東京大）、篠田謙一（科博・人類）、神澤秀明（科博・人類）、安達登（山梨大・医）、F.A.アルメダ（Surigaonon Heritage Center）、L.E. パウソン（National Research Council of the Philippines）

一般口演3：形態と機能

10月10日 16:00-16:45 第1会議室

座長：荻原直道（慶應義塾大学）

A-9 マリ人と日本人の骨盤における最大前・後傾可動角度の比較

○足立和隆（筑波大・体育）、川田順造（神奈川大・日本常民文化研）

A-10 身体で覚える：道具使用時の到達運動確立過程

○平井直樹（杏林大・医）、本郷利憲（都神経研・神経生理）、佐々木成人（都神経研・神経生理）、稲富貴美（杏林大・医）、魚谷恭太郎（杏林大・医）

A-11 ヒトの上肢、下肢、頭部における左右機能分化の性差

○松村秋芳（防衛医大）、竹内京子（帝京平成大）、中村好宏（防衛医大）、高橋裕（中医健大）、真家和生（大妻女子大）、岡田守彦（筑波大）

一般口演4：ゲノム解析

10月10日 16:45-17:45 第1会議室

座長：石田貴文（東京大学）

A-12 次世代シーケンサを用いた古代ゲノム - 核ゲノム解析の展望

○水野文月（東邦大・医）、王瀝（杭州師範大・医）、黒崎久仁彦（東邦大・医）、植田信太郎（東京大院・理）

A-13 次世代シーケンサを用いた古代ゲノム - ミトゲノム解析の展望

水野文月（東邦大・医）、王瀝（杭州師範大・医）、黒崎久仁彦（東邦大・医）、○植田信太郎（東京大院・理）

A-14 古代日本列島人の核ゲノム解析（第3報）

○神澤秀明（科博・人類）、Kirill Kryukov（東海大・医）、Timothy Jinam（遺伝研・集団/総研大・遺伝）、佐藤孝雄（慶応・文）、奈良貴史（新潟医療福祉大・医療技術・理学療法）、安達登（山梨大・医）、細道一善（金沢大・医）、田嶋敦（金沢大・医）、井ノ上逸朗（遺伝研・人類遺伝/総研大・遺伝）、斎藤成也（遺伝研・集団/総研大・遺伝）、篠田謙一（科博・人類）

A-15 出アフリカ「新仮説」：エリトリア海岸での貝類大繁殖による血液型の異なるY染色体集団の誕生「20人類集団におけるABO式血液型遺伝子座の対立遺伝子頻度(%)」による検証

○酒井哲夫

一般口演5：成長・発達

10月10日 14:00-15:15 第2+第3会議室

座長：足立和隆（筑波大学）

A-16 成長期縄文人・現代日本人の大腿骨骨幹中央部断面上の骨形成・骨吸収パターン

○水嶋崇一郎（聖マリアンナ医大・解剖）、平田和明（聖マリアンナ医大・解剖）

A-17 チャート法でみる現代日本人青年のプロポーションの変化

○服部恒明（茨城大・教育）、廣原紀恵（茨城大・教育）

A-18 身体プロポーションと体格の発育

○佐竹隆（日大・松戸歯）、広原紀恵（茨城大・教育）、S. Koziel（ポーランド科学アカデミー）、服部恒明（茨城大・教育）

A-19 チンパンジーにおける胎児・乳児期の体プロポーション成長

○中務真人（京都大・理）、小林諭史（京都大・理）、山田重人（京都大・医）、荻原直道（慶應大・理工）、森本直記（京都大・理）

A-20 乳幼児歩行開始後月齢に伴う歩行個体発達

○木村賛（東京大学）、八倉巻尚子（(株)メドブリッジ）

一般口演6：形態

10月10日 15:15-16:00 第2+第3会議室

座長：影山幾男（日本歯科大学）

A-21 胸・腰神経後枝内側枝の走行

○布施裕子（リハビリテーション天草病院）、時田幸之輔（埼玉医大・保健）、小島龍平（埼玉医大・保健）、相澤幸夫（日歯大・新潟生命歯学部・解剖）、熊木克治（日歯大・新潟生命歯学部・解剖）、影山幾男（日歯大・新潟生命歯学部・解剖）

A-22 隣接する異質な臓器へ血液供給する2本の基幹動脈は、どのような走行分岐様式を取るか？「総頸動脈系」と「腹腔動脈・上腸間膜動脈系」との比較検討（その1）人類進化の観点から

○澤野啓一(神歯大, 横浜市大放射線科), 横山高玲(横浜市大脳外科), 吉川信一郎(横浜市大脳外科), 田中健(江戸川病院), 加藤隆弘(江戸川病院), 百々幸雄(東北大医), 鈴木敏彦(東北大歯), 澤田元(横浜市大組織), 中務真人(京都大), 濱田穰(京都大), 萩原浩明(横浜市大放射線科), 井上登美夫(横浜市大放射線科), 川原信隆(横浜市大脳外科)

A-23 マカク属内腸骨動脈分枝, 特に壁側枝の形態学的特徴

○姉帯飛高 (埼玉医大・保健)、時田幸之輔 (埼玉医大・保健)、小島龍平 (埼玉医大・保健)

一般口演7：先史・考古-1

10月11日 9:00-9:30 第1会議室

座長：米田穰 (東京大学)

A-24 宮城県利府町硯沢遺跡 SP126 出土焼人骨から推定された9世紀東北日本での火葬行為

○富岡直人 (岡山理大・生物地球)、足立望 (岡山理大院・総情)、高橋義行 (利府町教育委員会)

A-25 自然環境と調和した島々？先史時代の奄美・沖縄諸島

○高宮広土 (鹿児島大・島嶼研)、米延仁志 (鳴門教育大・自然・生活系)、黒住耐二 (千葉県立中央博物館、資料管理研究科)、樋泉岳二 (早稲田大学・教育学部)

一般口演8：霊長類-1

10月11日 9:30-10:30 第1会議室

座長：松本晶子 (琉球大学)

A-26 発情サインとオス間闘争の進化

○中橋渉 (総研大・先導研)

A-27 チンパンジーの狩猟対象の共通性と地域差

○五百部裕 (椋山女学園大・人間関係)

A-28 Colobus 属と Presbytis 属の近縁2種間における半規管サイズの比較

○平崎鋭矢 (京都大・霊長研)、矢野航 (朝日大・歯)、Paul JOHNSON (Roehampton 大・生命科学)、Todd C. Rae (Roehampton 大・生命科学)

A-29 高解像度MRIによるテナガザル類の声門形態の比較分析

○西村剛 (京都大・霊長研)、今井宏彦 (京都大・情報)、松田哲也 (京都大・情報)

一般口演 9：現代人集団の遺伝子

10月11日 10:30-11:45 第1会議室

座長：安達登（山梨大学）

A-30 高密度 SNP ジェノタイピングによるモンゴル人特異的な自然選択の検出

○中山一大（自治医大・医）、大橋順（東大・理）、ルハグワスレン・ムンフトルガ（モンゴル健康科学大）、岩本禎彦（自治医大・医）

A-31 顔面サイズの個体差とその要因

○木村亮介（琉球大・医）、渡辺千晶（琉球大・医）、宮里絵理（琉球大・医）、山口今日子（琉球大・医）、佐藤丈寛（琉球大・医）、伊藤毅（琉球大・医）、川口亮（琉球大・医）、石田肇（琉球大・医）、山口徹太郎（昭和大・歯）、山本健（久留米大・医）、河内まき子（産総研・人間情報）、持丸正明（産総研・人間情報）

A-32 フィリピンネグリの集団遺伝歴史

○ジナム・ティモシー（遺伝研・集団）、徳永勝士（東京大院・人類遺伝学）、尾本恵市（東京大・理）、斎藤成也（遺伝研・集団）

A-33 次世代シーケンサーによる北海道アイヌの全ゲノム配列解析

○松前ひろみ（チューリヒ大・進化生態研）、小金淵佳江（北里大院・医療系）、木村亮介（琉球大・医）、田嶋敦（金沢大・医学系）、河村正二（東京大・新領域）、清水健太郎（チューリヒ大・進化生態研）、太田博樹（北里大・医）、尾本恵市（東京大）

A-34 成人男性の体毛の濃さと分布パターンに関連する遺伝的多型の探索

○佐藤丈寛、（琉球大・医）、渡辺千晶（琉球大・医）、山口今日子（琉球大・医）、川口亮（琉球大・医）、山本健（久留米大・医）、石田肇（琉球大・医）、木村亮介（琉球大・医）

一般口演 10：先史・考古-2

10月11日 15:00-15:45 第1会議室

座長：奈良貴史（新潟医療福祉大学）

A-35 中国浙江省田螺山遺跡における新石器時代のヒトと動物の炭素・窒素同位体分析

○米田穰（東京大・総研博）、孫国平（浙江省文物考古研究所）、丸山真史（東海大・海洋）、菊地大樹（京大・人文研）、松井章（奈文研・埋文セ）

A-36 宮古島市ツツピスキアブ洞窟の第IV-1・2層から混在出土したシカとイノシシの年代分離

○松浦秀治（お茶大・自然人類）、久貝弥嗣（宮古島市教育委員会）、藤田祐樹（沖縄県博・美）、近藤 恵（お茶大・自然人類）

A-37 稲荷山貝塚より出土した縄文時代人骨の放射性炭素年代測定

○日下宗一郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）、米田穰（東大・博）、山田康弘（国立歴史民俗博物館）

一般口演 1 1：古人骨- 1

10月11日 15:45-16:45 第1会議室

座長：川久保善智（佐賀大学）

A-38 縄文時代の離乳年齢：吉胡貝塚より出土した小児骨の炭素・窒素同位体分析

○蔦谷匠（京都大・理）、下見光奈（東京大・新領域）、藤澤珠織（青森中央学院大・看護）、片山一道（京都大・理）、米田穰（東京大・総合博）

A-39 縄文時代人の下肢長骨骨幹部形態の時期差と性差

○萩原康雄（新潟医福大・院医療福祉）、奈良貴史（新潟医福大・医療技術）

A-40 縄文時代の人口構造 -北海道縄文・続縄文集団-

○五十嵐由里子（日本大・松戸歯）

A-41 中国広西邕江域の先史狩猟民のユニークな屈葬人骨—ユーラシア東部の人類史解明に向けて—

○松村博文（札幌医大・保健医療）、李珍（広西文物考古研）、黄云忠（南寧市博）、黄強（南寧市博）、久保田慎二（東大・考古）、Nguyen Lan Cuong（ベトナム考古研）、深山絵実梨（早大・文学院）、渡辺慎也（練馬区教委）、山形真理子（金沢大・文化資源）、洪曉純（ANU・考古人類）、澤田純明（新潟医福大・医療技術）、篠田謙一（科博・人類）、海部陽介（科博・人類）

一般口演 1 2：古人骨-2

10月11日 16:45-17:45 第1会議室

座長：岡崎健治（鳥取大学）

A-42 胎内市城の山古墳出土の人骨

○奈良貴史（新潟医療福祉大学・医療技術）、澤田純明（新潟医療福祉大学・医療技術）、石山己喜夫（日本歯科大学・新潟生命歯学）、三上正人（日本歯科大学・新潟生命歯学）、水澤幸一（胎内市教育委員会）

A-43 MSMs からみた弥生時代北部九州域の地域的多様性

○米元史織（九大・総合研究博物館）

A-44 大腿骨骨幹近位部の扁平性はなぜ起きるのか—古代人骨に基づく検討—

○瀧川渉（駒澤大・総合教育研究・自然科学）

A-45 ウィーン自然史博物館所蔵の日本人古人骨に関する書簡について

○橋本裕子（京都大・総合博）、大野照文（京都大・総合博）

一般口演 13：歯の形態

10月11日 15:00-16:15 第2+第3会議室

座長：河野礼子（国立科学博物館）

A-46 チンパンジーの乳犬歯形態

○山田博之（愛知学院大・歯）、濱田穰（京都大・霊長研）、國松豊（龍谷大・経営）、中務真人（京都大・理）、石田英實（聖泉大学・看護）

A-47 形態地図法によるヒト・現生大型類人猿大臼歯の形態解析

○森田航（北海道大・歯）、森本直記（京都大・理）、河野礼子（科博・人類）、諏訪元（東京大・総合博）

A-48 フィリッピンのマヌワ人の歯に関する研究

○金澤英作（北原学院歯科衛生専門学校）、馬場悠男（国立科学博物館名誉教授）、尾本恵市（東京大・名誉教授）、J. J. ミランダ（Medical Doctor in Surigao）、F. A. アルメダ（Surigaonon Heritage Center）、L. E. バウソン（National Research Council of the Philippines）

A-49 死体状況によるアスパラギン酸のラセミ化率への影響

○咲間彩香（千葉大・法医）、斉藤久子（千葉大・法医）、千葉文子（東大・法医、千葉大・法医）、石井名実子（千葉大・法医）、岩瀬博太郎（千葉大・法医、東大・法医）

A-50 オナガザルの咬耗小面から顎運動を復元する 2

○清水大輔（京都大・理）、佐々木智彦（東京大・総合博）、諏訪元（東京大・総合博）

一般口演 14：古人骨-3

10月12日 9:00-10:00 第1会議室

座長：長岡朋人（聖マリアンナ医科大学）

A-51 喜界島長石の辻遺跡から出土した中世人骨

○竹中正巳（鹿児島女子短大）、鐘ヶ江賢二（鹿児島国際大・考古学ミュージアム）、下野真理子（鹿児島女子短大）、大西智和（鹿児島国際大・国際文化）

A-52 有楽町一丁目遺跡出土の室町時代人骨について

○坂上和弘（科博・人類）

A-53 北部九州・山口地域の近世人骨の骨盤形態

○高椋浩史（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

A-54 上海市広富林遺跡出土の新石器時代人骨

○岡崎健治（鳥取大・医）、米田穰（東京大・総合研究博物館）、高椋浩史（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）、菊地大樹（京都大学・人文科学研究所）、中橋孝博（九州大学）、陳傑（上海博物館・考古）、宋建（上海博物館・考古）

一般口演 15：化石人類

10月12日 10:00-10:45 第1会議室

座長：海部陽介（国立科学博物館）

A-55 欠損部へのつぎはぎと非剛体変形によるジャワ原人の脳容量推定

○久保大輔（筑波大・体育）、河内まき子（産総研・人間情報）、持丸正明（産総研・人間情報）、荻原直道（慶応大・理工）、海部陽介（国立科博・人類）

A-56 ネアンデルタールと早期ホモ・サピエンス頭蓋骨の3次元幾何形態学的解析

○荻原直道（慶應大・理工）、天野英輝（慶應大・理工）、森田祐介（慶應大・理工）、近藤修（東大・理）、鈴木宏正（東大・工）

A-57 ホモ・フロレシエンシス骨盤の機能形態分析

○馬場悠男（科博・人類）、海部陽介（科博・人類）、坂上和弘（科博・人類）、T. スティックナ、W. サプトモ、ジャトミコ

一般口演 16：霊長類-2

10月12日 9:00-10:00 第2+第3会議室

座長：中務真人（京都大学）

A-58 サバンナに生息するアヌビスヒヒ集団に対する捕食圧の推定

○松本晶子（琉球大・観光）、國松豊（龍谷大・経営）、Eva C. Wikberg（東大・新領域）、松下裕香（東大・新領域）、河村正二（東大・新領域）

A-59 マハレ山塊国立公園の野生チンパンジーにおける社会的慣習の集団間伝播

○島田将喜（帝京科学大・アニマルサイエンス学科）、西江仁徳（京都大・野生動物研究センター）、中村美知夫（京都大・野生動物研究センター）

A-60 ブタ創傷モデルによるヒトの創傷治癒が遅延する原因の検討

○内海大介 (琉球大・医)、高橋健造 (琉球大・医)、松本晶子 (琉球大・観光)

A-61 ニホンザル (*Macaca fuscata*) 身体のおトナ期における年齢変化

○濱田 穰 (京都大・霊長研)、Nguyen Van Minh (京都大・霊長研)、Porrawee Pomchote (Chulalongkorn 大・理)

ポスター発表

10月10日 9:00~10月12日 12:00 多目的室

討論時間：10月10日 13:00-14:00 [奇数番号]、10月11日 14:00-15:00 [偶数番号]

P-1 低カバレッジ NGS データから集団レベルの解析を可能にする配列構築のアプローチ

水野文月 (東邦大・医)、熊谷真彦 (東京大・院理)、○黒崎久仁彦 (東邦大・医)、王瀝 (杭州師範大・医)、林美千子 (東邦大・医)、杉山三郎 (愛知県立大・院国際文化)、植田信太郎 (東京大・院理)

P-2 ニホンザルの血中エストロゲンおよびプロゲステロン濃度変化に伴う血球の遺伝子発現変化の RNA-seq によるプロファイリング

○勝村啓史 (北里大・医)、太田博樹 (北里大・医)

P-3 メラネシア地域集団の皮膚色素関連遺伝子多型の集団遺伝学的解析

○中伊津美 (東大・理)、西田奈央 (国立国際医療研究センター)、木村亮介 (琉球大・医)、山口今日子 (琉球大・医)、古澤拓郎 (京大・アジア・アフリカ地域研究)、山内太郎 (北大・保健科学)、夏原和美 (日赤秋田看護大・看護)、中澤港 (神戸大・保健)、安高雄治 (関西学院大・総合政策)、石田貴文 (東大・理)、稲岡司 (佐賀大・農)、松村康弘 (文教大・健康栄養)、大塚柳太郎 (自然環境研究センター)、大橋順 (東大・理)

P-4 ヒトの手形態変異に関連する遺伝子とその分子機能の探索

○米須学美 (琉球大・医)、佐藤文寛 (琉球大・医)、山口今日子 (琉球大・医)、渡邊千晶 (琉球大・医)、川口亮 (琉球大・医)、山本健 (久留米大 医)、石田肇 (琉球大・医)、木村亮介 (琉球大・医)

P-5 ヒト前十字靭帯の膠原細線維の形態計測学的解析

○江連博光 (昭和大・医)、伊藤純治 (昭和大・保健医療)、森陵一 (昭和大・医)、井上由理子 (昭和大・医)、大塚成人 (昭和大・医)

P-6 ヒト大腿四頭筋の機能特徴に関する肉眼計測学的研究

○伊藤純治 (昭和大・保健医療)、柴田昌和 (湘南医療大学)、井上由理子 (昭和大・医)、江連博光 (昭和大・医)、森陵一 (昭和大・医)、森山浩志 (昭和大・医)、大塚成人 (昭和大・医)

P-7 足の3次元形状分析に基づく中ヒール靴型の修正部位検討

○河内まき子 (産総研・人間情報)、持丸正明 (産総研・人間情報)、元田真吾 (全靴協連)

P-8 足先軌道形成と位相振動子に基づくニホンザル四足歩行モデル

○伯田哲矢 (首都大院・工)、長谷和徳 (首都大・工)、平崎鋭矢 (京大・理)、林祐一郎 (首都大・工)

P-9 ヒト二足歩行の起源: 9. ナックルウォーキングの成立過程 - アリクイの事例からの考察

○藤野健 (東京都健康長寿医療センター研究所)

P-10 霊長類における骨盤と脊柱の配置について

○中野良彦 (大阪大・人間科学)

P-11 寛骨耳状面の三次元形態分析に関する方法的検討

○佐伯和信 (長崎大・医)、弦本敏行 (長崎大・医)、西啓太 (長崎大・医)、岡本圭史 (長崎大・医)、分部哲秋 (長崎大・医)

P-12 MDCT を用いた大腿骨計測による現代日本人の身長推定の検討

○千葉文子 (東大・法医、千葉大・法医)、槇野陽介 (東大・法医、千葉大・法医)、咲間彩香 (千葉大・法医)、岩瀬博太郎 (千葉大・法医、東大・法医)

P-13 頭蓋からの3次元的な復顔像作製に関する予備的検討

○今泉和彦 (科学警察研究所)、谷口慶 (科学警察研究所)、小川好則 (科学警察研究所)、松崎和敏 (みずほ情報総研)、前川秀正 (みずほ情報総研)、永田毅 (みずほ情報総研)

P-14 ヒトと大型類人猿における足内筋の筋重量比と PCSA 比の比較研究

○大石元治 (日獣大・獣医)、荻原直道 (慶大・理工)、清水大輔 (京大・自然人類)、菊池泰弘 (佐賀大・医)、遠藤秀紀 (東大・総合研究博物館)、宇根有美 (麻布大、獣医)、市原信恒 (麻布大、獣医)、浅利昌男 (麻布大、獣医)、尼崎肇 (日獣大、獣医)

P-15 ケニア北部産出・中新世類人猿 *Nacholapithecus kerioi* における下位胸椎標本 (KNM-BG 42810B) の棘突起形態について

○菊池泰弘 (佐賀大・医)、中野良彦 (大阪大・人間科学)、中務真人 (京都大・理)、國松豊 (龍谷大・経営)、清水大輔 (京都大・理)、荻原直道 (慶応大・理工)、辻川寛 (東北文化学園大・医療福祉)、高野智 (日本モンキーセンター)、石田英實 (京都大)

P-16 ネアンデルタール人と現生人類のエンドキャスト-前頭前野後縁の復元-

○小林靖 (防衛医大)、松井利康 (防衛医大)、天野英輝 (慶応大・理工)、森田祐介 (慶応大・理工)、荻原直道 (慶応大・理工)

P-17 中国広西邕江域の先史時代遺跡から出土した採集狩猟民の古病理学的特徴

○澤田純明 (新潟医福大・医療技術)、李珍 (広西文物考古研)、黄云忠 (南寧市博)、黄強 (南寧市博)、久保田慎二 (東大・考古)、深山絵実梨 (早大・文研)、渡辺慎也 (豊島区・教委)、山形眞理子 (金沢大・文化資源)、Nguyen Lan Cuong (ベトナム考古研)、洪曉純 (ANU・考古人類)、松村博文 (札幌医大・保健医療)

P-18 岩手県大船渡市野々前貝塚出土の縄文晩期人骨

○佐伯史子 (新潟医福大・医療技術)、荻原康雄 (新潟医福大・医療技術)、澤田純明 (新潟医福大・医療技術)、奈良貴史 (新潟医福大・医療技術)、米田穰 (東京大・総研博)、安達登 (山梨大・医)、大船渡市教育委員会

P-19 宮城県館貝塚から出土した縄文人骨の検討

○石島光 (京都大・理)

P-20 渥美半島、保美縄文貝塚出土の大腿骨にみられた外傷とカットマーク

○近藤修 (東京大・院理)、水嶋崇一郎 (聖マリアンナ医大)、茂原信生 (歴博)、山田康弘 (歴博)

P-21 北海道十勝川河口由来「洪積世」頭骨の関係書簡と年代測定および同位体比分析結果

○高山博 (慶大・文・人類学)、米田穰 (東大・総合博・年代測定室)、石川朗 (釧路市立博物館・釧路市埋蔵文化財調査センター)、加藤春雄 (釧路市立博物館・釧路市埋蔵文化財調査センター)

P-22 3D 骨格図譜データベースの公開と活用

○菊地大樹 (京都大・人文研)、中橋孝博 (奈文研・埋文)、茂原信生 (奈文研・埋文)、中務真人 (京都大・理)、松井章 (奈文研・埋文)

P-23 日本人類学会教育普及委員会活動報告 2015

○日本人類学会教育普及委員会

P-24 歴史的資料が示す時刻を推定

○矢崎勝巳 (矢崎郷土史研究所)

P-25 ヒト歯牙エナメル質中の同位体比分析による戦没者遺骨分別法の検討

○染田英利 (防医大・医)、覚張隆史 (北里大・医)、赤井潤子 (防医大・医)、橋本正次 (東歯大・歯)、小林靖 (防医大・医)、米田穰 (東大・総合研究博物館)、妻鳥元太郎 (防医大・医)、小寺力 (防医大・医)、荒木義之 (防医大・医)、石田肇 (琉球大・医)

P-26 双生児歯牙模型を用いた下顎大白歯歯冠溝形態における左右差の検討

○石井理子 (東京大・理)

P-27 ヒト歯牙エナメル質安定同位体分析-明治・大正から昭和へ時代変遷の検証-

○赤井潤子 (防医大・医)、覚張隆史 (北里大・医)、阿部伸一 (東歯大・歯)、松永智 (東歯大・歯)、山本将仁 (東歯大・歯)、荒木義之 (防医大・医)、妻鳥元太郎 (防医大・医)、小林靖 (防医大・医)、米田穰 (東大・総合研究博物館)、石田肇 (琉球大・医)、染田英利 (防医大・医)

P-28 由比ヶ浜南遺跡中世人における退化上顎側切歯の出現頻度

○小山田常一 (長崎大院・顎顔面解剖学)、北川賀一 (長崎大院・顎顔面解剖学)、松下真実 (人類学研究機構)、松下孝幸 (人類学研究機構)、真鍋義孝 (長崎大院・顎顔面解剖学)

P-29 チンパンジー・ゴリラの年齢と歯髓腔の狭窄度合

○佐々木智彦 (東京大・総研博)

P-30 堺環濠都市遺跡（大阪府）と一橋高校遺跡（東京都）の江戸時代人骨における乳歯の齲蝕

○長岡朋人（聖マリアンナ医科大・医・解剖）、安部みき子（大阪市立大・医・器官構築形態）、平田和明（聖マリアンナ医科大・医・解剖）

P-31 大隅半島の古墳時代人骨の歯石から検出されたデンプン粒

○下野真理子（鹿児島女子短期大学）、竹中正巳（鹿児島女子短期大学）

P-32 栽培イネ古 DNA 解析のための現生イネ大規模ゲノムデータ解析

○熊谷真彦（東大・理）、王瀝（杭州師範大・医）、植田信太郎（東大・理）

P-33 宮城県田柄貝塚出土 *Sus scrofa* 第 1, 2 後臼歯の計測値の主成分分析

○江川達也（理大院・総情）

骨折は古人骨にしばしば見られる外傷であるが、日本においては、発掘報告書での記載に留まり、学会発表や論文発表がなされることは少ない。しかし、古代人における骨折は、その個体の生命をしばしば奪い、また運よく自然治癒に至る場合でも、治癒過程における身体的可動性の著しい制約を伴う。従って、古人骨における骨折は、当時の生業や個人の身体的活動様式への重要な示唆を与えてくれる疾患である。更には、古代における骨折の cure や care がどのように行われていたかを考察することは、古病理学のみならず、医学史、看護学史などの領域にも非常に興味深い知見を提供すると思われる。

本シンポジウムでは、日本列島出土の古人骨の骨折例を中心に、自然人類学者のみならず、現代医療での骨折治療の研究者もパネリストとし、古人骨における様々な骨折症例とともに、古代人と現代人における骨折の歴史的な病態変化、現代の骨折の原因と頻発部位などを論じてもらう。本シンポジウムにより、いつ、どこで、どのような状況で骨折が生じ、その個体は日を経ずして死亡したのか、あるいは近親者等の介護や補助によって生き延びたのかを考察し、人類史復元に骨折研究がいかに有用であるかをアピールする。

講演

1. 10世紀のオホーツク文化期の大腿骨の骨幹部変形治癒骨折について

藤田 尚（新潟県立看護大・看護）、柳澤清一（東京大・理院）、山田俊介（千葉大・文）、村上浩代（千葉大・文）

2. 大腿骨骨折の今日的意義について

鈴木隆雄（桜美林大学大学院）

3. 北海道のオホーツク文化期人骨に見られた骨折例

石田肇（琉球大院・医）、仲宗根哲（琉球大院・医）、金谷文則（琉球大院・医）、長岡朋人（聖マリアンナ医大・医）

4. 現代人顎顔面骨折様相の近年の推移 性差・年代なども含めた文献的考察

平野浩彦（東京都健康長寿医療センター研究所）

5. 群馬県出土中近世人骨の骨折事例

榎崎修一郎（生物考古研）

6. 伏見城跡遺跡出土人骨の骨折事例

藤澤珠織（青森中央学院大学）

7. 土井ヶ浜 124号人骨の顔面骨における骨折の事例

大藪由美子（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

岩宿遺跡の発見以来60年以上にわたる緻密な発掘調査により、日本列島からは1万以上の後期旧石器時代遺跡が知られている。しかしその多彩な研究成果が、人類学分野で広く知られているとは言い難い。本シンポジウムでは、第一線で活躍している旧石器考古学者を招き、その重要な成果の一端を共有する機会としたい。人骨化石という直接証拠こそ乏しいが、日本列島はサフル地域と並び、後期更新世におけるホモ・サピエンスのアジア拡散を探る上で鍵となる地域である。テフrokロノロジーを駆使して信頼性の高い遺跡年代データが蓄積されている当地域へは、総合的に見て、4万年前頃にホモ・サピエンスが渡来したことが明らかになりつつある。また、ホモ・サピエンスならではの「現代人的行動」をめぐる議論は、これまでヨーロッパ・アフリカを中心に展開されてきたが、陥し穴猟や島からの石材搬入など、日本の遺跡証拠にはこのグローバルなテーマに大きく貢献できる材料が少なくない。旧石器の研究は集団間の移動や交流を探る有効なツールにもなっているし、更新世末の大型哺乳動物の大量絶滅についても新しい研究がなされている。

講演

1. **ホモ・サピエンスのアジア拡散：新しいモデル**
海部陽介（国立科博・人類）
2. **日本列島における現生人類の出現：年代と行動的特徴**
出穂雅実（首都大・人文）
3. **日本列島の陥し穴猟：世界最古の罾猟**
佐藤宏之（東京大・文）
4. **後期旧石器時代初頭における神津島産黒曜石の海上運搬**
池谷信之（沼津市文化財センター）
5. **黒曜石の獲得からみた旧石器時代の移動領域**
国武貞克（文化庁）
6. **剥片尖頭器が語る朝鮮半島との交流**
森先一貴（文化庁）
7. **日本列島における後期更新世後半の大型哺乳動物の絶滅**
岩瀬彬（首都大学東京・都市教養）

The comparative anthropology of the lower limbs

オーガナイザー：影山幾男（日本歯科大学）、時田幸之輔（埼玉医科大学）

本シンポジウムでは、軟部人類学として、下肢の形態学的特徴を考えたい。四肢は、脊椎動物が陸上生活に移ってから目ざましく発達した体部である。脊椎動物は多様な運動レパートリーを有しており、それぞれの種は、種特異的なロコモーション様式に応じた形態適応を示していると考えられる。しかし、骨盤、大腿、下腿、足根、指といった肢節の基本構成は共通している。また、ヒトは直立二足姿勢という固有の姿勢をとる。直立する人体ではロコモーション機能はもっぱら下肢が担当するというように機能分化がかなり顕著である。よって、ヒト固有の形態も予想される。このように下肢を観察・考察するためには、何が共通する形態で何が特徴的な形態であるかを機能との関連で常に考慮する必要があると考える。そこで、本シンポジウムでは、下肢を構成する、骨、筋、脊髄神経についての肉眼解剖学的な調査を紹介し、ヒト下肢の基本構成と特殊化について、理解を深めたい。

講演

1. ラッコの後肢筋骨格形態と遊泳ロコモーション

森健人（国立科学博物館）

2. 身体の支持に貢献する後肢筋の力学的性質：四足性霊長類と懸垂型霊長類の比較

後藤遼佑（大阪大院・人間科学）、中野良彦（大阪大院・人間科学）

3. ニホンザル足指筋の機能形態学的解析

小島龍平（埼玉医大・保健医療）

4. 足底筋とヒラメ筋の支配神経パターン比較解剖学-

荒川高光（神戸大・院・保健）、月生達也（神戸大・医・保健）

S4 生物を「ヒトの生物学」で学ぶ意義を考える 10月12日 10:00-12:00 第2+第3会議室
(教育普及委員会)

Significance to Learn Biology through “Human Biology”

オーガナイザー：松村秋芳（防衛医科大学校）、市石 博（都立国分寺高校）

初等中等教育では、生物を細胞の分子生物学、個体の生物学から集団の生物学、進化学まで様々な視点から学ぶ機会がある。これまでの生物学教育は地球環境に生息する生物を広く理解しようとする立場から行われてきた。しかし、学ぶ側も生物の一種であり、他の生物とともに変動する地球の自然環境の中でさまざまな困難をくぐり抜けて生き残り、生息している。私たちにとって生物としてのヒトとその周りの生物や環境との関係についての的確に把握することは、生物の本質的理解に迫る手法となり得る。日本人類学会教育普及委員会では、生物の諸分野である形態学、生理学、遺伝学、霊長類学、行動学などの単元をヒトの個体や進化と関連づけて教えることの効果について指摘してきた。生徒たちは生物として生きる自分自身を知ること、興味をもって学習に取り組むことができ、大きな学習成果が期待できる。一方、自然界や自然史におけるヒトの立ち位置を知ることが、自然の成り立ちの全体像と人類との関係を客観的に理解するために重要と思われる。

本シンポジウムでは、生物の各単元のテーマをヒトの生物学で教えることの意義について改めて考察する。人類学の視点から個体の生物を学ぶことで何が得られるか、変動する地球環境の中で進化し特殊化してきた人類という立場から多様化した地球生物を見ることが将来如何に役立つか、といった観点から議論したい。

講演

1. 過去の気候変動のモデリング

阿部彩子（東京大・大海研）

2. ヒトの行動についての4つの「なぜ」

小田亮（名古屋工大・情報）

3. 国際生物学オリンピック参加各国の高校生物教科書にみる Human Biology 教育の比較

松田良一（東京大・院・生命環境）

総合討論

司会 市石博（都立国分寺高校）・松村秋芳（防衛医科大学校）

New viewpoint of the cave site

オーガナイザー：奈良貴史（新潟医療福祉大学）

日本列島の文化始原を探るうえで洞窟遺跡の発掘調査は重要な地位を占めてきた。しかしながら、縄文時代草創期・早期の洞窟遺跡は豊富ながらも、その前の旧石器時代になると彼らが作成した石器などの文化遺物、彼らが利用した動物骨などの自然遺物、さらにはそれらを残した旧石器時代人の骨そのものが同一文化層から出土する例は僅かしか知られていない。その状況を打破するために最近も各地で発掘調査、ならびにタフォノミー的研究がなされている。洞窟遺跡の調査の意義について確認し、骨考古学・生物考古学的な研究とどのように連携していくかを議論するために以下の発表を企画した。

講演

1. 洞窟調査の重要性

奈良貴史（新潟医療福祉大・医療技術）

2. サキタリ洞遺跡Ⅰ区の更新世堆積層より得られた動物依存体

藤田祐樹、山崎真治、片桐千亜紀（沖縄博美）、菅原広史（浦添市教委）

3. 愛媛県上黒岩岩陰周辺の岩陰調査

小林謙一（中央大・文）、遠部慎（地球環境研究所）、及川穰（島根大・法文）

4. 長野県天狗岩岩陰遺跡の環境考古学調査

本郷一美（総研大・先端科学）、山田昌久（首都大・人文）、那須浩郎（総研大・先端科学）、米田穰（東大・総合研究博物館）、茂原信生（奈文研）、堤隆（浅間縄文ミュージアム）、高橋遼平（山梨大・医）、橋本望（杉並区教委）、黒沼太一（首都大・人文院）、萩原弘幸（首都大・人文院）、姉崎智子（群馬自然博）

5. 尻労安部洞窟出土骨の研究 旧石器時代における狩猟活動の解明に向けた新たな試み

澤浦亮平（東北大院・歯）、平澤悠（慶大・文）、澤田純明（新潟医福大・医療技術）、渡辺丈彦（慶大・文）、鈴木敏彦（東北大院・歯）、佐藤孝雄（慶大・文）、奈良貴史（新潟医福大・医療技術）

6. 骨有機質残存状況の洞窟遺跡と開地遺跡における比較

覚張隆史・太田博樹（北里大・医）、米田穰（東大・総合博）

Half a century of research on wild chimpanzees:

How can long-term studies of wild great apes contribute to anthropology?

オーガナイザー：中村美智夫 (京都大学)

タンザニア、マハレ山塊での野生チンパンジーの研究が開始されてから今年で50年を迎える。本シンポジウムでは、この記念すべき機会に、マハレでの50年間の研究成果の一端を紹介するとともに、野生類人猿の長期研究が人類学へ貢献できる側面を議論したい。人類進化を考える上で、形質人類学と現生霊長類の野外研究は車の両輪とでもいうべき存在である。とくに、ヒトに近縁な現生類人猿の研究は、初期人類の行動適応や人口学的なパラメータなどを考える際に必要な情報を提供できる。一方で、類人猿は寿命が長く、発達がゆっくりとしており、出産間隔が長いなどの特徴を持つため、一般的なデモグラフィの特徴を把握するだけでも数十年という時間がかかる。また、類人猿は行動可塑性にも富んでいるため、ある地域やある短期間だけの行動観察だけでは、彼らの行動レパートリーを把握することができないことも長期研究によって明らかになりつつある。本シンポジウムでは、多様な研究が多様な手法でなされてきたマハレでのチンパンジーの長期調査からいくつかの例をあげつつ、霊長類の長期野外研究が人類学に果たす役割とその課題について討論したい。

講演

1. 野生チンパンジー集団のデモグラフィ

中村美知夫 (京都大・野生動物)

2. タンザニア、マハレにおける野生チンパンジーの睡眠とベッドの構造

座馬耕一郎 (京都大・アフリカセンター)

3. DNA分析からみたチンパンジーの社会

井上英治 (京大・理)

人類の走能力の進化と変異については、1980年代に Carrier が提唱 (のち 2000年代に Brumble が継承)した hunting-running 共伴進化説、2010年代の Lieberman による東アフリカの unshod people にみられる forefoot striking 多用の発見など、注目すべき報告がみられるものの、その全体像については明らかになっていない。他方、東アフリカ系住民の長距離走能力の高さは、今世紀に入り一層自明になった。

近年、わが国の研究者により、東アフリカ (ケニア) の長距離走競技選手の下腿筋腱複合の超音波 CT 画像データや骨盤部 MRI データ等が現地で収集され、興味深い知見が得られている。このシンポジウムではそれらの知見を参考に、人類走能力の進化と変異について考えてみたい。

講演

1. **ランニングと人類進化 - 趣旨説明をかねて**

岡田守彦 (筑波大学・名誉教授)

2. **西アフリカ人の姿勢と骨盤前傾**

足立和隆 (筑波大学・体育系)

3. **骨盤に見られる長距離走者の孤独**

坂上和弘 (国立科学博物館・人類研究部)

4. **身体運動における東アフリカランナーの優位な筋骨格系について**

石川昌紀 (大阪体育大学大学院・スポーツ科学研究科)